

2020 年度（令和 2 年度）

シラバス

理学療法学科 夜間部

履正社医療スポーツ専門学校

開講時期	3年生 昼・夜間部 前期		分野	専門基礎	単位(時間)	1(30)
科目名	一般臨床医学		担当教員	高折 洋		
			実務経験			
実習内容						
授業概要	医療関係の学習をするにあたって、基礎的な知識を身に着けることは極めて大切であるが、その知識が単なる知識にとどまらず、臨床の現場で実際に役立つものであることは更に重要である。本講義では、3年生ということも考慮し、今まで学んだ基礎知識を復習、整理するとともに、臨床現場の実情等も可能な範囲説明し、将来の実習更には、理学療法士として現場で勤務する際にも役立つ臨床医学を学ぶ。					
達成目標	1.1.2年次で学んだ基礎的な知識を整理し、さらに必要な知識を身に着ける。 2.特に臨床と直結した基礎知識の習得に重点を置く。 3.基礎知識が現場でなぜ必要かも理解する。 4.将来の理学療法実習に役立つ臨床現場の実情と雰囲気を可能な範囲で理解する。 5.将来の実習や、現場での勤務に必要な医学的雑学を身に着ける。					
	学習内容等			事前・事後推奨課題/目安時間(時間)		
授 業 計 画	1	診察の基本 医療面接 バイタルサインの診察	事後:プリントの見直し		1	
	2	救命救急医療①(心肺蘇生法、心臓の仕組みとAED)	事前:前回プリントの見直し 事後:小テストの復習		2	
	3	一般検査、血液検査、生化学検査(1)	上記と同様		2	
	4	生化学検査(2)免疫血清検査等 心電図(1)	上記と同様		2	
	5	心電図(2)、筋電図、肺機能検査、骨量測定、	上記と同様		2	
	6	救命救急医療②(ショック、呼吸管理、輸液と輸血)	上記と同様		2	
	7	外科疾患(損傷)	上記と同様		2	
	8	外科疾患(感染性疾患、末梢血管障害)	上記と同様		2	
	9	外科疾患(腫瘍)	上記と同様		2	
	10	画像検査と脳血管障害(1)	上記と同様		2	
	11	画像検査と脳血管障害(2)	上記と同様		2	
	12	薬理学と薬物療法	上記と同様		2	
	13	メタボリックシンドローム 高齢者について	上記と同様		2	
	14	高齢者の疾患	上記と同様		2	
	15	皮膚疾患	上記と同様		2	
授業方法	講義					
評価方法	筆記試験(80%) 受講態度等(20%)					
テキスト						
参考文献						
履修上の 注意事項	毎回の小テストのを徹底的に復習する。					

開講時期	3年生 昼・夜間部 前期	分野	専門	単位(時間)	1(30)
科目名	理学療法研究法Ⅲ	担当教員	専任教員		
		実務経験			
実習内容					
授業概要	4分野に分かれ、ゼミナール形式で学習を進める。				
達成目標	近年、理学療法を実施するにあたり、エビデンスの構築が求められる。マニュアル通りの理学療法では対処できないことの方が多く、科学的、論理的に考え、治療方針を立てることが重要となる。本科目では4つの専門分野に分かれ、専門的な活動を通して論理的な思考を獲得する。				
授 業 計 画	1	【授業方法】			
	2	1) 教員よりテーマを指示するので、希望の講座を申し出ること。			
	3	2) 諸都合により、希望以外の講座となることもある。			
		3) 活動内容は、担当教員の指示を仰ぐこと。			
	4	【内容】			
	5	医療分野			
	6	福祉分野			
	7	スポーツ分野			
	8	保健分野			
	9				
	10				
	11				
	12				
	13				
	14				
15					
授業方法	研究活動、フィールドワーク				
評価方法	報告書、出席				
テキスト					
参考文献					
履修上の 注意事項	ゼミナールの進行に関しては各担当教員の指示を仰ぐこと				

開講時期	3年生 昼・夜間部 後期	分野	専門	単位(時間)	1(30)
科目名	理学療法研究法Ⅳ	担当教員	専任教員		
		実務経験			
実習内容					
授業概要	4分野に分かれ、ゼミナール形式で学習を進める。				
達成目標	近年、理学療法を実施するにあたり、エビデンスの構築が求められる。マニュアル通りの理学療法では対処できないことの方が多く、科学的、論理的に考え、治療方針を立てることが重要となる。本科目では4つの専門分野に分かれ、専門的な活動を通して論理的な思考を獲得する。				
授 業 計 画	1	【授業方法】			
	2	1) 教員よりテーマを指示するので、希望の講座を申し出ること。			
	3	2) 諸都合により、希望以外の講座となることもある。			
	4	3) 活動内容は、担当教員の指示を仰ぐこと。			
	4	【内容】			
	5	医療分野			
	6	福祉分野			
	7	スポーツ分野			
	8	保健分野			
	9				
	10				
	11				
	12				
	13				
	14				
15					
授業方法	研究活動、フィールドワーク				
評価方法	報告書、出席				
テキスト					
参考文献					
履修上の 注意事項	ゼミナールの進行に関しては各担当教員の指示を仰ぐこと				

開講時期	3年生 昼・夜間部 前期		分野	専門	単位(時間)	1(30)
科目名	臨床運動学		担当教員	森 憲一・森下 健・宮崎 喬平		
実習内容			実務経験			
授業概要	特に骨格筋に関する基礎医学を臨床の評価・治療に応用する考えを前半に講義する。後半は、『モーターコントロール』(Anne Shumway-Cook, Marjorie H.Woollacott著)の図書を中心に講義を行い、中枢神経疾患に対する臨床を網羅する。					
達成目標	これまで学んだ基礎医学(特に基礎運動学)を臨床の実際に活用の手がかりを得る。					
	学習内容等			事前・事後推奨課題/目安時間(時間)		
授 業 計 画	1	骨格筋の基礎知識とその臨床応用①	事前:筋の生理学について総復習	2		
	2	骨格筋の基礎知識とその臨床応用②	事前:筋の生理学について総復習	2		
	3	骨格筋の基礎知識とその臨床応用③	事前:筋の生理学について総復習	2		
	4	骨格筋の基礎知識とその臨床応用④	事前:筋の生理学について総復習	2		
	5	骨格筋の基礎知識とその臨床応用⑤	事前:筋の生理学について総復習	2		
	6	骨格筋の基礎知識とその臨床応用⑥	事前:筋の生理学について総復習	2		
	7	骨格筋の基礎知識とその臨床応用⑦	事前:筋の生理学について総復習	2		
	8	骨格筋の基礎知識とその臨床応用⑧	事前:筋の生理学について総復習	2		
	9	神経生理学的知識とその臨床応用①	事前:記憶、運動学習、運動技能について復習	2		
	10	神経生理学的知識とその臨床応用②	事前:記憶、運動学習、運動技能について復習	2		
	11	神経生理学的知識とその臨床応用③	事前:教材であるモーターコントロールに簡単に目を通しておく	2		
	12	神経生理学的知識とその臨床応用④	事前:教材であるモーターコントロールに簡単に目を通しておく	2		
	13	神経生理学的知識とその臨床応用⑤	事前:教材であるモーターコントロールに簡単に目を通しておく	2		
	14	神経生理学的知識とその臨床応用⑥	事前:教材であるモーターコントロールに簡単に目を通しておく	2		
	15	神経生理学的知識とその臨床応用⑦	事前:教材であるモーターコントロールに簡単に目を通しておく	2		
授業方法	PowerPointを用いた講義、教科書(モーターコントロール)を用いた講義					
評価方法	ペーパーテスト 100%					
テキスト	配布資料 田中繁/他監訳 『モーターコントロール 研究室から臨床実践へ』 医歯薬出版					
参考文献						
履修上の 注意事項	全ての講義を教室にて行います。 ※9・10 神経生理学的知識とその臨床応用①②は、実技もあるので治療台を使用できれば幸甚です					

開講時期	3年生 昼・夜間部 前期	分野	専門	単位(時間)	1(30)
科目名	理学療法評価学演習	担当教員	木下 拓真		
		実務経験			
実習内容					
授業概要	1・2年生まで履修してきた基礎科目・専門基礎科目を統合して、理学療法評価の思考過程を学ぶ科目である。ここまで履修してきた科目を復習しながら、理学療法プロセスの実際を理解する。※3年次評価実習・3年次OCSE対策講義				
達成目標	①評価意義を理解したうえで、必要な検査測定項目を選択して評価計画を立案できる。 ②対象者の全体像・ニード・ICFの要素の関連性、予後予測を捉えたうえで、問題点の抽出ができる。 ③期間的要素・ニードを含めた目標設定ができる。 ④概ね問題点に対応したプログラム立案ができる。				
	学習内容等		事前・事後推奨課題/目安時間(時間)		
授 業 計 画	1	理学療法評価演習(オリエンテーション) 3年次臨床実習・OCSE概要	検査測定項目列举作業	1	
	2	理学療法プロセスの理解①	事後:プロセス復習	1	
	3	理学療法プロセスの理解②	事後:プロセス復習	1	
	4	理学療法プロセスにおけるICFの活用	事後:ICFの各項目復習	1	
	5	ボトムアップとトップダウン			
	6	トップダウンのための正常動作の理解 寝返り・起き上がり	事後:動作観察フォーマットの完成	1	
	7	トップダウンのための正常動作の理解 立ち上がり・歩行①	事後:動作観察フォーマットの完成	1	
	8	トップダウンのための正常動作の理解 立ち上がり・歩行②	事後:動作観察フォーマットの完成	1	
	9	ボトムアップ:病態と障害像の把握①・②	事前:プレゼン準備	2	
	10	ボトムアップ:病態と障害像の把握③・④	事後:資料まとめと追加学習	1	
	11	ボトムアップ:病態と障害像の把握⑤・⑥	事後:資料まとめと追加学習	1	
	12	ボトムアップ:病態と障害像の把握⑦・⑧・⑨	事後:資料まとめと追加学習	1	
	13	統合と解釈・目標設定・問題点の抽出・治療プログラム立案 仮説検証作業/ニードの設定/機能と動作の因果関係	事後:自己学習	1	
	14	統合と解釈・目標設定・問題点の抽出・治療プログラム立案 仮説検証作業/ニードの設定/機能と動作の因果関係	事後:自己学習	1	
	15	統合と解釈・目標設定・問題点の抽出・治療プログラム立案 予後予測/目標設定	事後:自己学習	1	
授業方法	講義・プレゼンテーション				
評価方法	テスト・ポートフォリオ評価				
テキスト					
参考文献					
履修上の 注意事項	1・2年生で取得しておくべき知識が不足しているものは、事前・事後学習が必須である。				

開講時期	3年生 昼・夜間部 後期		分野	専門	単位(時間)	1(30)
科目名	理学療法総合評価学実習 I		担当教員	木下 拓真		
			実務経験			
実習内容						
授業概要	1・2年生まで履修してきた基礎科目・専門基礎科目を統合して、理学療法評価の思考過程を実践する科目である。ここまで履修してきた科目を復習しながら、理学療法プロセスを模擬症例を通して実践する。※3年次評価実習・3年次OCSE対策講義					
達成目標	①評価意義を理解したうえで、必要な検査測定項目を選択して評価計画を立案できる。 ②対象者の全体像・ニード・ICFの要素の関連性、予後予測を捉えたうえで、問題点の抽出ができる。 ③期間的要素・ニードを含めた目標設定ができる。 ④概ね問題点に対応したプログラム立案ができる。					
	学習内容等			事前・事後推奨課題/目安時間(時間)		
授 業 計 画	1	動作観察・分析とカルテ記載方法				1
	2	動作観察・分析とカルテ記載方法 ペーパーペイシエントオリエンテーション				1
	3	模擬症例①		レポート課題		3
	4					
	5	模擬症例②		レポート課題		3
	6					
	7	模擬症例③		レポート課題		3
	8					
	9	模擬症例④		レポート課題		3
	10					
	11	模擬症例⑤		レポート課題		3
	12					
	13	模擬症例⑥		レポート課題		3
	14					
	15	OSCE対策		事後:OSCE予習		1
授業方法	講義・グループワーク					
評価方法	レポート					
テキスト						
参考文献						
履修上の 注意事項	レポート課題はすべてワードファイルをメール上でやり取りとりを行います。本講義開始までに、メールアドレスの取得をしておいてください。※ワードファイルのコメント機能を利用するため、PCで作業できる環境を整えておくことが望ましい。					

開講時期	3年生 昼・夜間部 集中		分野	専門	単位(時間)	1(30)
科目名	理学療法総合評価学実習Ⅱ		担当教員	専任教員、他		
			実務経験			
実習内容						
授業概要	評価実習に対する準備として、対象者に実用性のある評価・治療技術と、今後の実習に必要なであろう知識・技術と、実習前後の準備とする。					
達成目標	臨床実習で求められる基本的な理学療法の実践に向けて、各種理学療法評価法、基礎理学療法の実習と実践ができる。					
	学習内容等			事前・事後推奨課題/目安時間(時間)		
授 業 計 画	1	【実習前実技認定試験】(理学療法評価学Ⅰ～Ⅵ、物理療法、運動療法、日常生活活動)		事前:基本的な評価・治療技術の総復習	技術水準達成まで	
	2	・実習に挑むに当たり、ふさわしい服装、整容で適切な行動をとることができる。				
	3	・評価の実践でオリエンテーションができ、口頭指示、言葉使いの適切さを備えている。				
	4	・検査の目的や実施方法についての知識を確実なものにする。 ・各検査項目の注意点・検査所見に関する知識を確実なものにする。 ・円滑に且つ正確に実施できる技術を習得する。 ・リスク管理が自身で行うことができる。				
	5	【実習前オリエンテーション①】		事前:実習要項・感染症ガイドラインを熟読する、実習前レポート作成 事後:実習前レポート修正	2	
	6	臨床実習の評価方法、実習に向けての心構えなど				
	7	【実習前オリエンテーション②】		事前:実習要項を熟読する	1	
	8	臨床実習の評価方法、実習に向けての心構えなど				
	9	【実習後ホームルーム】		事前:提出物準備、実習報告書作成 事後:実習報告書修正	2	
	10	喀痰・吸引		事後:講義復習	2	
	11					
	12	介助機器の実技		事後:講義復習	2	
	13					
	14	福祉用具の実際		事後:講義復習	2	
	15					
授業方法	グループワーク、講義形式					
評価方法	筆記試験及び実技試験にて行う。履修態度、課題提出状況なども含む。					
テキスト						
参考文献						
履修上の注意事項						

開講時期	3年生 昼・夜間部 集中		分野	専門	単位(時間)	1(30)
科目名	理学療法総合評価学実習Ⅲ		担当教員	専任教員		
			実務経験			
実習内容						
授業概要	3年生評価実習にて、自身の経験した症例を元に、患者さんの情報を組み込み、症例レビューを作成し、学生間で共有する。					
達成目標	疾患・障害像・手術を理解し、対象者の個別性を知る。					
	学習内容等			事前・事後推奨課題/目安時間(時間)		
授 業 計 画	1	オリエンテーション	事後:レビュー作成の準備		1	
	2	プレゼン資料作成	事後:レビュー作成の修正		2	
	3		事後:レビュー作成の修正		2	
	4		事後:レビュー作成の修正		2	
	5		事後:レビュー作成の修正		2	
	6		事後:レビュー作成の修正		2	
	7		事後:レビュー作成の修正		2	
	8		事後:レビュー作成の修正		2	
	9		事後:レビュー作成の修正		2	
	10		事後:レビュー作成の修正		2	
	11		事後:レビュー作成の修正		2	
	12	発表	事後:個々の発表のまとめ		2	
	13		事後:個々の発表のまとめ		2	
	14		事後:個々の発表のまとめ		2	
	15		事後:個々の発表のまとめ		2	
授業方法	資料作成、発表					
評価方法	出席率、発表点					
テキスト						
参考文献						
履修上の 注意事項	実習前に目的を把握し、実習にて必要な情報を揃えること。					

開講時期	3年生 昼・夜間部 前期		分野	専門	単位(時間)	1(30)
科目名	義肢学		担当教員	高島 京子		
			実務経験			
実習内容						
授業概要	欠損した手足に装着する人工の手足である義肢。義足においては単に外観を補うだけのものにとどまらず、動力装置を持たない義足で歩行・走行できる仕組みについて学ぶ。又義手においては、基礎知識から最新技術を駆使した筋電義手までを教授し、実生活の中での義手機能の現状について正しく理解を深める。					
達成目標	装着者とその家族のニーズに合った義肢を選択し適合させるために最低限必要な知識の習得を最終目標とする。①切断者の身体的特性について理解する。②各種ソケットの種類と特徴について説明できる。③義足歩行における異常歩行の観察と原因について理解する。④義肢のアライメントに関する基本的知識の習得。⑤各継手の機構と機能について理解する。					
	学習内容等			事前・事後推奨課題/目安時間(時間)		
授 業 計 画	1	切断総論 切断の原因、切断部位名称	事前:上下肢の解剖学		1	
	2	切断総論 術後のケア、断端管理	事後:講義内容の復習		1	
	3	義肢総論 義肢の概念、構成要素、名称	事前:テキストの関連内容の予習		1	
	4	下腿義足 構造特性、ソケット	事後:講義内容の復習		1	
	5	下腿義足 ソケット	事前:テキストの関連内容の予習		1	
	6	下腿義足 適合とアライメント	事後:講義内容の復習		1	
	7	大腿義足 構造特性、ソケット	事前:テキストの関連内容の予習		1	
	8	大腿義足 膝継手	事後:講義内容の復習		1	
	9	大腿義足 膝継手	事前:テキストの関連内容の予習		1	
	10	大腿義足 アライメントと異常歩行のチェックアウト	事後:講義内容の復習		1	
	11	膝義足・股義足	事前:テキストの関連内容の予習		1	
	12	サイム義足・足部部分義足	事後:講義内容の復習		1	
	13	義手 切断部位名称・構成要素・構造特性	事前:テキストの関連内容の予習		1	
	14	筋電義手	事後:講義内容の復習		1	
	15	模擬体験大腿義足を用いた実習	事前:異常歩行のチェックアウト復習 事後:講義内容の復習		2	
授業方法	講義(パワーポイント使用)					
評価方法	筆記試験					
テキスト	川村次郎/他編 『義肢装具学』 医学書院					
参考文献	澤村誠志/著 『切断と義肢』、『義肢学』 医歯薬出版 久保俊一/他編集 『実践装具療法』 金芳堂					
履修上の 注意事項						

開講時期	3年生 昼・夜間部 後期		分野	専門	単位(時間)	1(30)
科目名	装具学		担当教員	高島 京子		
			実務経験			
実習内容						
授業概要	整形外科の保存療法の有効な手段として重要な位置をしめている装具。リハビリテーション計画を進める上で、真に役に立つ装具の基礎知識の習得を目的とする。装具の目的・機能・適応について教授し、講義に加えてギプス包帯を用いた採型実習を行う。					
達成目標	装着者の病態に応じた適切な装具を選択でき、基本的な装着方法や管理方法を理解する。①装具の種類と目的を説明することができる。②装具の構成要素名称、部品の機能と取り付け位置を理解する。③リハビリテーションを行う上での装具の役割を説明できる。④装具が適合しているかどうかのチェックポイントを理解する。					
	学習内容等			事前・事後推奨課題/目安時間(時間)		
授 業 計 画	1	装具総論 装具の概念、目的、名称、分類	事前:テキストの関連内容の予習		1	
	2	装具の実際 下肢装具の適合とアライメント 構成要素	事後:講義内容の復習		1	
	3	継ぎ手の種類と調整方法	事前:テキストの関連内容の予習		1	
	4	素材別下肢装具の機能と特徴	事後:講義内容の復習		1	
	5	代表的な下肢装具	事前:テキストの関連内容の予習		1	
	6	下肢装具の疾患別適応例	事後:講義内容の復習		1	
	7	体幹装具の構成要素とデザイン	事前:テキストの関連内容の予習		1	
	8	側弯矯正装具	事後:講義内容の復習		1	
	9	整形靴	事前:テキストの関連内容の予習		1	
	10	整形靴、足装具	事後:講義内容の復習		1	
	11	上肢装具(肩装具、肘装具)	事前:テキストの関連内容の予習		1	
	12	上肢装具(手関節装具)	事後:講義内容の復習		1	
	13	実習 ギプス包帯を用いた採型実習	事前:テキストの関連内容の予習		0.5	
	14	同上	事前:講義内容の復習		0.5	
	15	国家試験対策問題演習、総括	事前:総復習 事後:講義内容の復習		2	
授業方法	講義(パワーポイントを使用)					
評価方法	筆記試験					
テキスト	川村次郎/他編 『義肢装具学』 医学書院					
参考文献	加倉井周一/編 『装具学』 医歯薬出版 久保俊一/他編集 『実践装具療法』 金芳堂					
履修上の 注意事項						

開講時期	3年生 昼・夜間部 後期		分野	専門	単位(時間)	1(30)
科目名	理学療法治療学Ⅰ(整形疾患)		担当教員	石川 定		
			実務経験	○		
実習内容	実際の脊髄損傷疾患を踏まえて指導					
授業概要	すでに学んだ解剖学、生理学、理学療法評価、整形外科学などの知識を用いて、整形外科疾患、特に手術後の理学療法のあり方を理解する。整形外科疾患に理学療法士として介入するために、横に並んでいた知識の糸を縦に紡いでいく。					
達成目標	整形外科疾患(特に手術後)における理学療法士の役割を説明できる。 主要な整形外科疾患における理学療法の流れを理解する。 疾患によって理学療法の流れが異なることが理解できる。 整形外科疾患に理学療法士として介入していくために必要な行動を選択できる。					
	学習内容等			事前・事後推奨課題/目安時間(時間)		
授 業 計 画	1	総論 整形外科手術後の理学療法の目的、原理、原則	事前:理学療法評価の関連内容を復習		2	
	2	整形外科手術後の理学療法の評価と訓練	事前:理学療法評価の関連内容を復習		2	
	3	大腿骨頸部骨折の理学療法	事前:運動器の解剖学、参考文献の関連内容の復習 事後:配布資料の復習		2	
	4	大腿骨転子部骨折の理学療法	事前:運動器の解剖学、参考文献の関連内容の復習 事後:配布資料の復習		2	
	5	腰椎椎間板ヘルニアの理学療法	事前:運動器の解剖学、参考文献の関連内容の復習 事後:配布資料の復習		2	
	6	腰椎椎間板ヘルニアの理学療法	事前:運動器の解剖学、参考文献の関連内容の復習 事後:配布資料の復習		2	
	7	人工関節置換術(THR)の理学療法	事前:運動器の解剖学、参考文献の関連内容の復習 事後:配布資料の復習		2	
	8	人工関節置換術(TKR)の理学療法	事前:運動器の解剖学、参考文献の関連内容の復習 事後:配布資料の復習		2	
	9	膝内障(半月板損傷、タナ障害)の理学療法	事前:運動器の解剖学、参考文献の関連内容の復習 事後:配布資料の復習		2	
	10	膝内障(十字靭帯損傷、側副靭帯損傷)の理学療法	事前:運動器の解剖学、参考文献の関連内容の復習 事後:配布資料の復習		2	
	11	変形性関節症の理学療法	事前:参考文献の関連内容の復習 事後:配布資料の復習		2	
	12	関節リウマチの理学療法	事前:参考文献の関連内容の復習 事後:配布資料の復習		2	
	13	腱損傷(総論、肩腱板損傷)の理学療法	事前:運動器の解剖学、参考文献の関連内容の復習 事後:配布資料の復習		2	
	14	腱損傷(手指屈筋伸筋損傷、アキレス腱断裂)の理学療法	事前:運動器の解剖学、参考文献の関連内容の復習 事後:配布資料の復習		2	
	15	末梢神経損傷の理学療法	事前:運動器の解剖学、参考文献の関連内容の復習 事後:配布資料の復習		2	
授業方法	座学による講義					
評価方法	筆記試験					
テキスト	なし					
参考文献	松野丈夫/監 『標準整形外科学』 医学書院					
履修上の注意事項	特になし					

開講時期	3年生 昼・夜間部 前期		分野	専門	単位(時間)	1(30)
科目名	理学療法治療学Ⅱ(脳血管障害)		担当教員	市田 修一		
			実務経験			
実習内容						
授業概要	脳血管障害を中心とし知識の整理を行い、そのリハビリテーションについて講義と実技を行う。					
達成目標	脳血管障害を中心とした中枢神経系障害に対して、評価から治療までの一連のプロセスを実施できるようにする。					
	学習内容等			事前・事後推奨課題/目安時間(時間)		
授 業 計 画	1	脳卒中の基本知識	事前:教科書の該当分野の予習 事後:配布資料等を用いた復習		2	
	2	脳卒中の基本知識	事前:教科書の該当分野の予習 事後:配布資料等を用いた復習		2	
	3	脳卒中の基本知識	事前:教科書の該当分野の予習 事後:配布資料等を用いた復習		2	
	4	脳卒中の診断	事前:教科書の該当分野の予習 事後:配布資料等を用いた復習		2	
	5	脳卒中の治療	事前:教科書の該当分野の予習 事後:配布資料等を用いた復習		2	
	6	脳卒中の治療	事前:教科書の該当分野の予習 事後:配布資料等を用いた復習		2	
	7	脳卒中リハビリテーション 評価	事前:教科書の該当分野の予習 事後:配布資料等を用いた復習		2	
	8	脳卒中リハビリテーション 評価	事前:教科書の該当分野の予習 事後:配布資料等を用いた復習		2	
	9	脳卒中リハビリテーション 評価	事前:教科書の該当分野の予習 事後:配布資料等を用いた復習		2	
	10	脳卒中リハビリテーション 実際	事前:教科書の該当分野の予習 事後:配布資料等を用いた復習		2	
	11	脳卒中リハビリテーション 実際	事前:教科書の該当分野の予習 事後:配布資料等を用いた復習		2	
	12	脳卒中リハビリテーション 実際	事前:教科書の該当分野の予習 事後:配布資料等を用いた復習		2	
	13	最新リハビリテーション	事前:教科書の該当分野の予習 事後:配布資料等を用いた復習		2	
	14	最新リハビリテーション	事前:教科書の該当分野の予習 事後:配布資料等を用いた復習		2	
	15	頭部外傷 脳腫瘍	事前:教科書の該当分野の予習 事後:配布資料等を用いた復習		2	
授業方法	講義形式(パワーポイントと配布資料、教科書)と実技形式にて行う。					
評価方法	筆記試験、出席状況、授業態度を総合して評価する。					
テキスト	正門由久/他編著 『脳卒中 基礎知識から最新リハビリテーションまで』 医歯薬出版					
参考文献	原寛美/他編 『脳卒中理学療法の理論と技術』 MEDICAL VIEW					
履修上の 注意事項	積極的に授業に参加すること。実技の際は、事前に案内するのでジャージ等動きやすい服装で参加すること。					

開講時期	3年生 昼・夜間部 前期		分野	専門	単位(時間)	1(30)
科目名	理学療法治療学Ⅲ(小児疾患)		担当教員	上杉 雅之		
			実務経験			
実習内容						
授業概要	小児理学療法は単にこどもの障害に対する治療だけにとどまらず、それを支援する保護者をはじめとする支援者への指導等も含めて支援することが重要である。そして、対象疾患の概略、障害像、問題点などについて理解を深め評価・治療を行うことができる。					
達成目標	①障害児への理学療法を実施できる。 ②脳性麻痺や小児整形疾患などの各小児疾患について理解する。 ③障害児への理学療法の評価・治療について学習する。					
	学習内容等			事前・事後推奨課題/目安時間(時間)		
授 業 計 画	1	オリエンテーション	事前:小児理学療法の関連内容を復習		2	
	2	脳性麻痺の概論	事前:オリエンテーションの復習 事後:脳性麻痺の復習		2	
	3	脳性麻痺(SD)	事前:脳性麻痺の復習 事後:痙直型両麻痺の復習		2	
	4	脳性麻痺(SQ)	事前:痙直型両麻痺の復習 事後:痙直型四肢麻痺の復習		2	
	5	脳性麻痺(SH)	事前:痙直型両麻痺の復習 事後:痙直型片麻痺の復習		2	
	6	脳性麻痺(AT)	事前:痙直型片麻痺の復習 事後:アテトーゼの復習		2	
	7	重症児	事前:アテトーゼの復習 事後:重度児の復習		2	
	8	小児整形(二分脊椎)	事前:重度児の復習 事後:二分脊椎の復習		2	
	9	小児整形(ペルテス病等)	事前:二分脊椎の復習 事後:ペルテス病等の復習		2	
	10	筋ジス	事前:ペルテス病等の復習 事後:筋ジスの復習		2	
	11	ダウン症	事前:筋ジスの復習 事後:ダウン症の復習		2	
	12	NICU	事前:ダウン症の復習 事後:NICUの復習		2	
	13	評価	事前:NICUの復習 事後:障害児の評価の復習		2	
	14	評価	事前:障害児の評価の復習 事後:障害児の評価の復習		2	
	15	地域リハ・まとめ	事前:障害児の評価の復習		2	
授業方法	講義を中心に行うが、できるだけ視聴覚資料を用いて理解を図るようにする。					
評価方法	授業態度(10%)と試験(90%)を総合的に判定して行う。					
テキスト	上杉雅之/監 『イラストでわかる小児理学療法』 医歯薬出版					
参考文献	上杉雅之/他監訳 『脳性麻痺のクリニカルリーズニングアプローチ』 医歯薬出版 他					
履修上の注意事項	障害児へのアプローチは、単に当事者だけにとどまらず母親を中心とした対人援助であることを心がける。					

開講時期	3年生 昼・夜間部 前期		分野	専門	単位(時間)	1(30)
科目名	理学療法治療学Ⅳ(呼吸器疾患)		担当教員 実務経験	松浦 昭彦、伊東 憂郁		
実習内容						
学習目標	呼吸器疾患の病態を知る。 画像、血液ガスデータを理解し、評価力を高め予後予測を行う。					
授業内容	採血データを理解する。 画像所見を理解する。 採血データ、画像所見を基に全身状態の評価ができるようになる。					
	学習内容等			事前・事後推奨課題/目安時間(時間)		
授 業 計 画	1	概論 解剖 生理	事前:呼吸器の解剖・生理		1	
	2		事前:呼吸器の解剖・生理 事後:呼吸器の解剖・生理		1	
	3	病態を知る 血液ガス レントゲン、CT	事前:検査値の読み方を熟読		1	
	4	生化学 呼吸機能	事前:検査値の読み方を熟読 事後:授業内容の復習		1	
	5	人工呼吸器 フィジカルアセスメント	事後:授業内容の復習		1	
	6		事後:授業内容の復習		1	
	7		事前:病気がみえる、画像所見欄の 予習		1	
	8		事後:画像、採血データの読み方の復 習		1	
	9	運動療法	事後:労作時の呼吸・循環動態		1	
	10	在宅酸素療法、栄養	事後:酸素、呼吸器患者の栄養につ いて		1	
	11	実技	事後:授業内容の復習		1	
	12	症例検討	事後:授業内容の復習		1	
	13	症例検討	事後:授業内容の復習		1	
	14	症例検討	事後:授業内容の復習		1	
	15	まとめ	事後:授業内容の復習		1	
授業方法	講義、実技					
評価方法	筆記試験(100%、論述+記入)					
テキスト	医療情報科学研究所/編 『病気がみえるvol.4 呼吸器』 MEDIC MEDIA 佐藤純一/著 『臨床看護に役立つ 検査値の読み方』 日本看護協会出版会					
参考文献						
履修上の 注意事項	実技の時は、ジャージ・Tシャツ着用					

開講時期	3年生 夜間部 前期		分野	専門	単位(時間)	1(30)
科目名	理学療法治療学Ⅴ(循環器・代謝疾患)		担当教員	平岩 康之、澁川 武志		
実習内容			実務経験			
授業概要	基本的な循環器疾患および代謝疾患の病態とリハビリテーションの解説。 運動療法および検査測定の実技。 循環器や代謝疾患のリハビリテーションは疾病予防も含めた広い意味がありますが本科目では特に急性期病院での理学療法士の業務に関することを中心に行います。					
達成目標	循環器系および代謝疾患の理学療法の理解を深めること。 循環器系および代謝疾患に必要な情報集ができるようになること。 循環器系および代謝疾患の評価を行い理学療法の計画を立てることができること。 患者教育に必要な知識を養う。					
	学習内容等			事前・事後推奨課題/目安時間(時間)		
授 業 計 画	1	内部障害の理学療法の概要 (平岩)	教科書のイントロダクションを予習復習			1
	2	心臓、大血管の解剖と生理 (平岩)	解剖学の教科書の心臓、血管の部分を復習。事後は授業で学習した部位について解剖学の教科書で確認してください。			2
	3	症候学と病態生理(主な循環器疾患) (平岩)	内科学の虚血性心疾患に関する部分を復習または自己学習。			2
	4	狭心症、心筋梗塞の診断学 治療学(医学的情報の収集) (平岩)	生理学に関して特に自律神経に関するところを復習、確認。			2
	5	循環器病の評価 (平岩)	教科書の循環器疾患の評価を予習復習			2
	6	情報収集と理学療法士の行う検査測定(実技あり) (平岩)	教科書の循環器疾患の評価を予習復習			2
	7	心筋梗塞の理学療法 急性期の運動療法 (澁川)	教科書の「循環器疾患の理学療法の目的・評価項目・治療プログラム」を予習・復習			2
	8	心筋梗塞の理学療法 急性期の運動療法 (澁川)	教科書の「循環器疾患の理学療法の目的・評価項目・治療プログラム」を予習・復習			2
	9	心不全の理学療法 (澁川)	教科書の「循環器疾患の理学療法の目的・評価項目・治療プログラム」を予習・復習			2
	10	心不全の理学療法 (澁川)	教科書の「循環器疾患の理学療法の目的・評価項目・治療プログラム」を予習・復習			2
	11	開心術後のリハビリテーション (澁川)	「心血管疾患におけるリハビリテーションに関するガイドライン(2012年改訂版)」の心臓手術後に関する部分を予習・復習			2
	12	開心術後のリハビリテーション (澁川)	「心血管疾患におけるリハビリテーションに関するガイドライン(2012年改訂版)」の心臓手術後に関する部分を予習・復習			2
	13	急性期以降の運動療法 (澁川)	教科書の「循環器疾患急性期以降の運動療法」を予習・復習			2
	14	ADL指導 (澁川)	教科書の「循環器疾患患者のADL指導」を予習・復習			1
	15	代謝疾患とメタボリックシンドローム、糖尿病の理学療法 (平岩)	教科書の糖尿病の項を予習復習			1
授業方法	講義、実技					
評価方法	筆記テスト					
テキスト	柳沢健/編 『理学療法学ゴールドマスターテキスト6 内部障害系理学療法学』 メジカルビュー社					
参考文献	聖マリアンナ医科大学病院リハビリテーション部/著 『理学療法リスク管理マニュアル』 三輪書店 医療情報科学研究所/編 『病気がみえるvol.2 循環器』 MEDIC MEDIA 糖尿病治療研究会/著 『糖尿病運動療法の手引き』 医歯薬出版					
履修上の 注意事項	資料は最低限度しか配布しません。 スライドの要点はできるだけ授業を聞きながら書き写してください。					

開講時期	3年生 昼・夜間部 前期		分野	専門	単位(時間)	1(30)
科目名	理学療法治療学VI(神経筋疾患)		担当教員	久我 宜正、喜多 頼広、後藤 悠太 山崎 聖也、荻野 悟		
			実務経験			
実習内容						
授業概要	代表的な神経筋疾患(パーキンソン病、パーキンソニズム、脊髄小脳変性症、多系統萎縮症、筋萎縮性側索硬化症、皮膚筋炎、多発性筋炎、大脳皮質基底核変性症、筋ジストロフィー、多発性硬化症、ギランバレー症候群など)に関する基礎および臨床の知見を紹介し、座学を中心とし、実際の症例の動画を教材として実技やグループディスカッションを行う					
達成目標	1. 神経筋疾患患者の病態を理解する。 2. 神経筋疾患患者の障害構造理解し、自分で整理できる状態になる。 3. 神経筋疾患患者に必要な理学療法評価を把握し、実際に評価できるようになる。 4. 神経筋疾患患者に対する理学療法介入のエビデンスを知り、介入方法を選択できるようになる。 5. 神経筋疾患患者に対する理学療法士として関わり方を理解する。					
	学習内容等			事前・事後推奨課題/目安時間(時間)		
授 業 計 画	1	神経筋疾患総論(喜多)	事前・事後: 脳や神経の解剖や役割を復習する。		2	
	2	ニューロリハビリテーション総論(喜多)	事前・事後: 脳や神経の解剖や役割を復習する。		2	
	3	パーキンソン病の病態理解(久我)	事前: パーキンソン病についての復習 事後: パーキンソン病の病態理解の復習		2	
	4	パーキンソン病の理学療法評価(久我)	事前: パーキンソン病についての復習 事後: パーキンソン病の理学療法評価の復習		2	
	5	パーキンソン病の理学療法介入(久我)	事前: パーキンソン病についての復習 事後: パーキンソン病の理学療法介入の復習		2	
	6	パーキンソニズム病の理学療法(久我)	事前・事後: パーキンソニズムの復習		2	
	7	脊髄小脳変性症・多系統萎縮症の理学療法(山崎)	事前・事後: 脊髄小脳変性症の復習		2	
	8	脊髄小脳変性症・多系統萎縮症の理学療法(山崎)	事前・事後: 脊髄小脳変性症の復習		2	
	9	筋萎縮性側索硬化症の理学療法(荻野)	事前・事後: 筋萎縮性側索硬化症の復習		2	
	10	筋萎縮委縮性側索硬化症の理学療法(荻野)	事前・事後: 筋萎縮性側索硬化症の復習		2	
	11	皮膚筋炎・多発性筋炎の理学療法(荻野)	事前・事後: 皮膚筋炎、多発性筋炎の復習		2	
	12	筋ジストロフィーの理学療法(荻野)	事前・事後: 筋ジストロフィーの復習		2	
	13	多発性硬化症の理学療法(後藤)	事前・事後: 多発性硬化症の復習		2	
	14	ギランバレー症候群の理学療法(後藤)	事前・事後: ギランバレー症候群の復習		2	
	15	まとめ(喜多)	事前・事後: 神経筋疾患全般の要点を整理し復習		4	
授業方法	講義を中心とし、グループ討議を取り入れる					
評価方法	筆記テスト					
テキスト	配布資料(スライド形式)					
参考文献	小森哲夫/監 『神経難病領域のリハビリテーション実践アプローチ』 メジカルビュー社 丸山仁司/編 『神経障害系理学療法』 医歯薬出版 Janet Carr/他著 『ニューロロジカルリハビリテーション』 医歯薬出版					
履修上の 注意事項						

開講時期	3年生 昼・夜間部 前期		分野	専門	単位(時間)	1(30)
科目名	理学療法治療学Ⅶ(脊髄損傷)		担当教員	羽田 晋也		
			実務経験	○		
実習内容	実際の脊髄損傷疾患を踏まえて指導					
授業概要	脊髄損傷の病態と評価、理学療法の実際について学ぶ。 脊髄損傷者の日常生活動作(ADL)は、テキストに加え、動画を用いて解説する。 脊髄損傷の評価と理学療法の実際は、講義と実技をとおして学ぶ。					
達成目標	脊髄損傷の病態・評価・理学療法について理解する。					
	学習内容等			事前・事後推奨課題/目安時間(時間)		
授 業 計 画	1	脊髄損傷のリハビリテーション①	事後:授業(リハビリテーションの流れ)の復習		1	
	2	脊髄損傷のリハビリテーション②	事後:授業(脊髄損傷の疫学)の復習		1	
	3	脊髄損傷の日常生活動作(ADL)①	事後:授業(四肢麻痺のADL)の復習		1	
	4	脊髄損傷の日常生活動作(ADL)②	事後:授業(対麻痺のADL)の復習		1	
	5	脊髄損傷の随伴症状	事後:授業(随伴症状)の復習		1	
	6	脊髄損傷の合併症	事後:授業(合併症)の復習		1	
	7	脊髄損傷の急性期理学療法①	事後:授業(評価と理学療法の実際)の復習		1	
	8	脊髄損傷の急性期理学療法②	事後:授業(評価と理学療法の実際)の復習		1	
	9	脊髄損傷の回復期理学療法①	事後:授業(評価と理学療法の実際)の復習		1	
	10	脊髄損傷の回復期理学療法②	事後:授業(評価と理学療法の実際)の復習		1	
	11	脊髄損傷の回復期理学療法③	事後:授業(評価と理学療法の実際)の復習		1	
	12	脊髄損傷の回復期理学療法④	事後:授業(評価と理学療法の実際)の復習		1	
	13	脊髄損傷者の使用する車いす①	事後:授業(車いすの種類と機能)の復習		1	
	14	脊髄損傷者の使用する車いす②	事後:授業(車いす駆動と介助方法)の復習		1	
	15	脊髄損傷の病態・評価・理学療法	事後:授業(1~14回のまとめ)の復習		1	
授業方法	講義、実技					
評価方法	授業レポート(20%) 筆記試験(80%)					
テキスト	岩崎洋/編 『脊髄損傷理学療法マニュアル』 文光堂					
参考文献	武田功/編 『PTマニュアル脊髄損傷の理学療法』 医歯薬出版					
履修上の 注意事項	実技の際には、動きやすい服装で臨むこと。スカート、ジーンズは厳禁です。					

開講時期	3年生 昼・夜間部 集中	分野	専門	単位(時間)	1(30)
科目名	理学療法治療学演習 I	担当教員	専任教員		
		実務経験			
実習内容					
授業概要	OSCE(Objective Structured Clinical Examination)を行い、その結果を自己にて振り返る。また、評価結果を用いて、学生間・教員とディスカッションを行う。情報収集の具体的方法論。				
達成目標	実際の臨床場面を想定し、問診や面接、基本的評価技術の運動スキルや、自ら実施した結果から臨床推論を立てる認知スキルを確認し、臨床スキルを向上する。				
	学習内容等		事前・事後推奨課題/目安時間(時間)		
授 業 計 画	1	オリエンテーション(OSCE1)	事後:症例情報を理解	2	
	2	OSCE1 ・ 理学療法における問診や面接、検査測定技術を確認する。 ・ 問診や面接、検査測定をどのように関連付けて実施したのか確認する。 ・ 得られた情報から考えられる問題点の列挙を行えるか確認する。 ・ 実施直後にフィードバックを行い、自己の臨床スキルレベルを整理、確認する。	事前:理学療法プロセスを確認 事後:グループ内容の復習	2	
	3				
	4				
	5				
	6				
	7	リフレクション、グループディスカッション ・ 実施したことを紙面上で確認する。 ・ 他者との違いから学ぶ。 ・ 模擬症例から臨床推論を整理し学ぶ。	事前:OSCE振り返り内容の再確認 事後:リフレクション内容の復習	2	
	8				
	9				
	10	コミュニケーション・性格分類講義	事後:振り返りレポート	2	
	11				
	12				
	13				
	14				
	15				
授業方法	OSCE(Objective Structured Clinical Examination)、リフレクション、グループディスカッション、課題作成				
評価方法	出席率 100%				
テキスト	なし				
参考文献	なし				
履修上の注意事項					

開講時期	3年生 昼・夜間部 集中		分野	専門	単位(時間)	1(30)
科目名	理学療法治療学演習Ⅱ		担当教員	専任教員		
			実務経験			
実習内容						
授業概要	OSCE(Objective Structured Clinical Examination)を行い、その結果を自己にて振り返る。また、評価結果を用いて、学生間・教員とディスカッションを行う。OSCE1とOSCE2のフィードバックを行う。					
達成目標	実際の臨床場面を想定し、問診や面接、基本的評価技術の運動スキルや、自ら実施した結果から臨床推論を立てる認知スキルを確認し、臨床スキルを向上する。					
	学習内容等			事前・事後推奨課題/目安時間(時間)		
授 業 計 画	1	オリエンテーション(OSCE2)		事後:症例情報を理解		2
	2	OSCE2		事前:理学療法プロセスを確認 事後:グループ内容の復習		2
	3	・ 理学療法における問診や面接、検査測定技術を確認する。				
	4	・ 問診や面接、検査測定をどのように関連付けて実施したのか確認する。				
	5	・ 得られた情報から考えられる問題点の列挙を行えるか確認する。				
	6	・ 実施直後にフィードバックを行い、自己の臨床スキルレベルを整理、確認する。				
	7			事前:OSCE振り返り内容の再確認 事後:リフレクション内容の復習		2
	8	リフレクション、グループディスカッション				
	9	・ 実施したことを紙面上で確認する。 ・ 他者との違いから学ぶ。 ・ 模擬症例から臨床推論を整理し学ぶ。				
	10					
	11			事前:OSCEの修正点を考察		2
	12					
	13	OSCE1、OSCE2のフィードバック				
	14					
	15					
授業方法	OSCE(Objective Structured Clinical Examination)、リフレクション、グループディスカッション、課題作成					
評価方法	出席率 100%					
テキスト	なし					
参考文献	なし					
履修上の注意事項						

開講時期	3年生 昼・夜間部 前期		分野	専門	単位(時間)	1(30)
科目名	福祉住環境論		担当教員	谷口 昌宏		
			実務経験	○		
実習内容	介護、福祉の現場での経験を活かし実践的な住環境整備					
授業概要	障がい者・高齢者にとって生活しやすい住環境とはどういうものかと生活環境整備における理学療法士の役割について学ぶ。そのために必要な諸制度と住宅改修の基礎知識、福祉用具の選び方・使い方について学ぶ。					
達成目標	介護保険制度を主とする諸制度について理解する。身体状況に応じた適切な生活環境整備(福祉用具・住宅改修)について、ご本人・介護者・他職種にプランの提示も含めた助言ができるようになる。					
	学習内容等			事前・事後推奨課題/目安時間(時間)		
授 業 計 画	1	福祉住環境論総論と理学療法士の役割 (1)生活環境学の考え方	事前:テキスト第1章の予習		1	
	2	(2)生活環境の特徴と課題 (3)生活環境整備に関する法的制度	事前:テキスト第2・3章の予習、介護保険制度について調べておく		2	
	3	(4)生活環境整備の進め方 (5)(6)生活環境整備の基本①②	事前:テキスト第4・5・6章の予習		2	
	4	(7)玄関・アプローチ (8)廊下・階段 (9)トイレ (10)浴室・脱衣室の環境整備	事前:テキスト第7・8・9・10章の予習		2	
	5	(11)台所・食堂 (12)居室・寝室の環境整備 (13)(14)疾患別環境整備	事前:テキスト第11・12・13・14章の予習		2	
	6	福祉用具のまとめ				
	7	(15)建築図面の書き方・読み方	事前:テキスト第15章の予習		1	
	8	住宅改修のまとめ				
	9	福祉用具展示場の見学(エイジレスC.)				
	10	福祉用具展示場の見学(エイジレスC.)				
	11	実技演習「福祉用具を活用した介助実技」				
	12	グループ演習「住宅改修案の検討」のための事例の提示(DVD・家屋図面)	事後:次回の演習のために事例(経過と家屋図面)をよく読んでおく		1	
	13	グループ演習①「住宅改修案の検討」	事前:各人で改修案を考えておく		1	
	14	グループ演習②「住宅改修案の検討」				
	15	住宅改修案のグループ発表	事前:発表できるように準備しておく		1	
授業方法	講義・グループ演習					
評価方法	筆記試験・レポート・グループ発表					
テキスト	細田多穂/編 『生活環境学テキスト』 南江堂					
参考文献	『初めて学ぶ福祉住環境』 市ヶ谷出版社 『福祉住環境コーディネーター検定試験2級公式テキスト』 東京商工会議所					
履修上の注意事項	・福祉用具展示場見学はATCエイジレスセンター(大阪市住之江区南港北)で行う。 ・「福祉用具を活用した介助実技」は実技ができる服装で出席(白衣でなくてよい)					

開講時期	3年生 昼・夜間部 後期		分野	専門	単位(時間)	1(30)
科目名	地域理学療法 I		担当教員	市田 修一、松尾 薫		
			実務経験			
実習内容						
授業概要	地域リハビリテーションの概要を講義形式で学習するとともに、その知識を活かして理学療法士の関わり方を学習する。					
達成目標	地域リハビリテーションについて理解し、理学療法士の役割を学ぶ。また、介護保険制度の内容を理解し、将来利用者に対して理学療法サービスが提供できるように学ぶ。					
	学習内容等			事前・事後推奨課題/目安時間(時間)		
授 業 計 画	1	オリエンテーション、日本の現状について	事前:教科書の予習 事後:教科書・配布資料の復習			1
	2	地域包括システム	事前:教科書の予習 事後:教科書・配布資料の復習			1
	3	地域理学療法のあり方、圏域	事前:教科書の予習 事後:教科書・配布資料の復習			1
	4	老年症候群、フレイル	事前:教科書の予習 事後:教科書・配布資料の復習			1
	5	介護保険制度概要	事前:教科書の予習 事後:教科書・配布資料の復習			1
	6	介護保険制度概要	事前:教科書の予習 事後:教科書・配布資料の復習			1
	7	社会福祉の行政組織	事前:教科書の予習 事後:教科書・配布資料の復習			1
	8	介護老人保健施設、介護老人福祉施設の役割	事前:教科書の予習 事後:教科書・配布資料の復習			1
	9	通所リハビリテーション 訪問リハビリテーション	事前:教科書の予習 事後:教科書・配布資料の復習			1
	10	在宅への準備	事前:教科書の予習 事後:教科書・配布資料の復習			1
	11	日常生活用具、住宅改修、事例検討	事前:教科書の予習 事後:教科書・配布資料の復習			1
	12	事例検討、発表(以上、市田)	事前:教科書の予習 事後:教科書・配布資料の復習			1
	13	地域における連携において特に在宅への準備について、カンファレンス、自宅への訪問について	事前:テキスト関連内容の予習			1
	14	地域における連携での特に施設の取り組みについて	事前:テキスト関連内容の予習			1
	15	通所リハビリテーション施設、また、生活環境整備を通して事例から理解を深める(以上、松尾)	事前:テキスト関連内容の予習			1
授業方法	パワーポイントやプリント使用して、講義形式やグループワーク形式にて行う。					
評価方法	筆記試験、出席率、授業態度を総合して評価する。					
テキスト	牧田光代/他編 『標準理学療法学専門分野 地域理学療法学』 医学書院					
参考文献	浅川康吉/編 『理学療法学テキスト 地域理学療法学』 MEDICAL VIEW					
履修上の注意事項	積極的に授業に参加し、知識を深めること。					

開講時期	3年生 昼・夜間部 集中	分野	専門	単位(時間)	1(30)
科目名	地域理学療法Ⅱ	担当教員	井口 祥平、狩野 祐司		
		実務経験			
実習内容					
授業概要	ベトナム社会主義共和国の医療現場を見学 現地の医療スタッフとの意見交換の実施				
達成目標	海外研修を通して、医療の原点に戻り、社会に貢献できる				
授 業 計 画	1	ベトナムの歴史			
	2				
	3	ベトナム戦争と医療			
	4				
	5	ベトナムの伝統医療			
	6				
	7	発展途上国の救急医療			
	8				
	9	発展途上国における地域医療			
	10				
	11	発展途上国における小児医療			
	12				
	13	現地医療スタッフとのディスカッション			
	14				
	15	まとめ			
授業方法	研修、ディスカッション				
評価方法	出席、レポート				
テキスト					
参考文献					
履修上の 注意事項	海外研修となるためパスポートの取得が必要である。				

開講時期	3年生 昼・夜間部 後期	分野	専門	単位(時間)	1(30)
科目名	臨床評価実習	担当教員	専任教員		
		実務経験			
実習内容					
授業概要	医療・福祉機関1ヶ所(理学療法業務)で6週間の実習を行う。				
達成目標	<p>検査・測定などの評価を実習指導者の下で実施できる。</p> <p>治療の一部を実習指導者の下で実施できる。</p> <p>実習指導者の理学療法プロセスを追体験し、理学療法プロセスを理解する。</p>				
授 業 計 画	<p>実習前レポートの作成 各自の行動目標を作成する。</p> <p>理学療法プロセスにおいて、主に評価技術の臨床的スキル(運動・認知)を実践する。 担当症例を通じて学ぶ場合がある。 指導者の診療に参加して学ぶ場合がある。 できるだけ多くの症例に関わる。 評価、治療の実施、再評価など、理学療法の流れを知る。</p> <p>実習日誌などで記録と報告を行う。</p> <p>日常業務の見学や、カンファレンスへの参加を通じて社会的スキルなどを学ぶ。</p> <p>感想文の作成</p> <p>実習報告書の作成 実習で見付かった自らの課題に対して、今後の学習計画報告を行う。</p>				
授業方法					
評価方法	実習指導者による評価や提出課題などにもとづき、学校が行う。				
テキスト	なし				
参考文献					
履修上の 注意事項	9割以上の出席が必要。				